

日本あちこち河川遡行記（第273回）

奈良1-6.曾我川（その1）前半 令和1年6月28日（金）晴のち曇り

大和川の新たな支流「曾我川」に向かう。曾我と言えば「蘇我入鹿」を思い起すが関係が有るのだろうか？いつものこだまに乗り新大阪で乗り換え大阪に向かう。先日の運賃誤り間違えが有るので西口に向かい一旦出て直ぐUターンしICOCAをタッチして環状線ホームに急ぐ。下車する王寺駅での再度の間違いが嫌なので面倒だが遠回りをする。ホームには大和路快速が入線しており乗り込む。窓から外を見ると駅前の道路に車は無く、ヒルトンホテルの前には数台の車と警察車両が待機している。G20大阪サミット2019が始まったので大規模な交通規制が敷かれている。生まれてからこの方こんな風景は見たことが無い！こういうのを冥途の土産と言うのだろうか。



01.今回調査区間位置図



02.大阪駅前から車が消えた

王寺駅で降り近鉄新王寺駅に向かう通路を東に向かうと、通りの南側には牛丼屋、ハンバーグ店、大規模パンショップなどが並んでいる。この後利用する河合町のコミバスに乗る時刻まで余裕が有るので「モスバーガー」に入り早めの昼を摂っておく。激辛の照り焼きバーガーの辛さは半端でない。かつてタイの東北部の無償援助の橋の事前調査で連日3食激辛のタイ料理を食べさせられたので辛さには慣れているので大丈夫だー。

近鉄田原本線の3両編成のワンマン電車に乗り二つ目の「佐味田川」駅で下車。田原本線は本線では無く田原本が地名である。この線は近鉄の他の線とは繋がっていない独立線である。田原本駅の手前に並走する橿原線との間に連絡線が有り、首の皮一枚繋がっている。



03.新王寺駅から近鉄田原本線に乗る

10時58分、丘の上に有る「佐味田川」駅に着きミニ広場に出る。周囲は瀟洒な一軒家の住宅街になっている。駅は西和に数多く有る小さな町の一つ「河合町」に有り、北が左側になった絵地図が駅前にある。T字型の町の横線の真ん中に駅が有る。これから乗るコミバスはT字の一番上（東）の御幸橋に行くてくれる。

バス停の園地には今が盛りの「アガパンサス」が薄紫色の花を咲かせている。梅雨の季節の花と言えば「アジサイ」であるがこちらは洋花で奥ゆかしい色の花である。



04.河合町の絵地図が佐味田川駅前に



05.佐味田川駅は駅らしくない



06. 駅前のミニ広場には夏の花が

町営バスは「すな丸」と称し、ゆるキャラがバス停に描かれている。路線は4つあり、それぞれ西、東、南、北ルートと言い、東西と南北と2台のワゴン車がぐるぐる町内を巡回している。東西と南北がこの駅で乗り継ぎが出来るダイヤになっている。

11時17分発北コースを待っていると先ず西コースの乗客ゼロの車がやって来る。すぐに北コースのが来た。こちらは先客が1人おられ乗り換えなしで直ぐに二台は発車する。運賃は無料だ！



07. 11時17分発北ルートの町営バス 08. 先ず西ルートのバスが来て北を待つを待つ

10分ほどの乗車で「御幸橋」バス停に着き100m先の大和川に架かる橋に向かう。本流遡行時にこの橋を渡り右岸側を東に向かったが、今日は左岸側を東に向かう。

彼方には「広瀬神社」の南北に連なる社叢が際立つ。社叢の前が曾我川の合

流点である。



09.「広瀬神社」の社叢が川に迫る



10.大和川（奥）に曾我川（手前）が合流

大きく右に回り足は南に向く。こちらは「河合町」、対岸は「川西町」である。この川から見れば川東町になるが、大和川から見れば西になるので川西町となったのだろう。子は親には敵わない。すぐに地図には記載の無い新しい橋が建設中である。川の前後と直ぐ東を流れる「飛鳥川」には道路と橋が記載されているのでこの橋の区間が最後の工事区間となるようだ。



11.新橋と道路を建設中

最初の橋、県道 36 号の「保橋」を見ると、3 径間のコンクリートゲルバー桁が二つ連なり、その姿が少し違う。橋脚上の桁高さが右の橋は高く、左のは低い。スパン割の微妙な差がここに現れている。

西の彼方の二上山の雌岳が雄岳に隠れて一山になっている。河内からはいつも二山であったが北大和では一山である。



12.この二つの3径間ゲルバー桁橋は
奥と手前は構造が違うぞ



13.二上山の雌岳は雄岳に隠れて
一上山に

[続く]